

■ デジタルものづくり対応支援事業（デジタル人材育成支援事業） 市販AIセンサを使った品質検査研修会 実地研修報告会（会員限定）

ものづくり中小企業が、次世代自動車のビジネスを獲得するためには、「デジタルものづくり」に取り組む必要があります。しかし、「デジタルものづくり」の導入及び活用には、「ヒト（人材）、モノ（設備・装置）、カネ（資金）、情報」が必要であり、中小企業では、特に不足しているデジタル人材の確保が課題となっています。

そのため、次世代自動車センター浜松では、ものづくり中小企業のデジタル人材を確保する手段として、ものづくりを知っている技術者の中からデジタル人材を育成するため、スズキ株式会社様のご協力をいただきスマートファクトリーやDXの取り組みの中から、テーマを絞って研修を実施するデジタル人材育成支援事業を実施しています。

今年度は、昨年度に引き続き、「市販AIセンサを使った品質検査研修会」を開催し、まずは集合研修として、12月にスズキ株式会社生産技術の担当者様を講師に迎え、品質検査取り組みや画像検査装置を使用した機能の説明等を解説していただいた後、1月から2月にかけて参加企業の皆様の現場に画像検査装置を設置して実地研修を行いました。

今回、実施いただいた会員企業の皆様と情報共有及び活用推進を図るため、実地研修結果及びシステムの評価について、報告会を開催しました。

■日時：2026年3月6日（金）14時～16時

■場所：浜松商工会議所会館会議室

■参加者：3社／18名、スズキ(株)様5名、スズキ協力協同組合様1名

<開会>



<挨拶及び事業の背景・経緯の説明>



【参加企業様からの報告】

<宝和工業(株)様>



(Q&A)

<第一工業(株)様>



(Q&A)

<栴汐見製作所様>



(Q&A)

<講評：スズキ(株)様>



【全体総括】



【参加者の声】

(A社関係)

- ・ しっかり学習させれば判定できることがわかり、多くの検査に有効活用できると思った。
- ・ AI センサーの範囲設定の最適化が重要。ポイントをしっかり絞り検出させることが大事であると認識した。利用できる事例を考慮して活用してみたいと思った。
- ・ やわらいものでも確認ができることは参考になった。
- ・ 同じような色同志だと誤検知をしてしまうこと、検査するものは位置を統一する方がよいということが参考になった。

(B社関係)

- ・ 正常に判定を行えていることを NG ワークを使って確認することなど参考になった。実際ラインに組み込んでトライされたことが素晴らしいと思った。
- ・ 部品の結合部の検査が可能という点が参考になった。
- ・ NG 判定基準をしっかり学習させると簡単に使用できるとのことで、基準づくりをしっかりやるのが大切であることを理解した。限度の基準を明確にし、活用したいと思った。
- ・ センサを設置する環境についての配慮等、細かい点についても参考になった。
- ・ 生産している中でトライをして、誤検出がなかったことが勉強になった。
- ・ 専門的な知識がなくても設置、使用が可能だということがわかった。不良のパターンが少ない・わかりやすいとすぐにでも可能だと思った。

(C社関係)

- ・ AI 画像で何ができるのか、いろいろなことを試しているところが良かった。
- ・ NG を学習させる過程で色々なパターンがあり、簡単にできること、対策させることが難しい対象物のことも参考になった。一つの部位に対して同時に対策することの難しさも共感した。
- ・ 小さい部品からキズまで、色々検査してできること、できないことが勉強になった。
- ・ 多部品での TRY の結果があり参考になった。細かい部品での NG の学習に時間がかかるなど、苦労話がありためになった。